

平成 30 年 10 月 30 日  
日本船主協会 企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で  
～東京国際コンテナターミナル見学会を実施～

当協会は、学校教育において、わが国の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業を取り上げていただくよう、会員会社や関係団体等と連携して教育関係者に対し、商船や海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、10月18日（木）に、商船三井・宇徳の協力を得て、東京国際コンテナターミナルの見学会を台東区の小学5年生約50名を対象に実施しました。

当日は、まず映像資料にてターミナルの概要やコンテナ輸送の役割、東京港が首都圏の生活・産業活動を支えていること等について学びました。

その後、商船三井 高島港湾ターミナル事業チームリーダーの案内の下、屋上からコンテナヤードを見学し、トランスファークレーンにより運ばれるコンテナや、荷役の様子等のダイナミックな光景を目の当たりにすることができました。



最後に行われた質疑応答では、「いくつかのコンテナを船に積むことができるの?」「日本からアメリカに行くまでにはどれくらいの日数がかかるの?」「(肉や野菜等もコンテナ船で運んでいる話を聞いて) 船で運んでいる間に食料は傷んだりしないの?」等多くの質問があったほか、東京港では主に食料・衣料等の消費財が多く運ばれてくることや、世界最大級のコンテナ船等についての説明があり、普段接する機会の少ない海運や商船について興味を持っていただく機会となりました。

当協会は引き続き会員会社等と連携し、四面環海わが国にとって欠かすことのできない海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。

